

# 第2回 若手ワーキンググループ 議論報告

令和2年6月24日

経済産業省 産業技術環境局

若手ワーキンググループ事務局

# 若手が見ているコロナ危機を踏まえた世界

## 医療

ウイルス感染や重症化には、  
なりやすい人となりにくい人の個人差がある。  
個人差をひもとき、誰しもが健康になれる  
個別化医療・ヘルスケアを推進したい。

## 研究

研究全体の中でオンラインでできること、できないことの  
棚卸しを行い効率を高めたい。試行錯誤的な  
実験はオンラインでは難しいが、一部の実験については  
技術によって遠隔で行うことも可能になるかもしれない。

## 介護

介護施設入居者とご家族の  
オンライン面会が普及している。  
人とのつながりを大事にしている介護現場  
だからこそITの使い方がある。

## 働き方

テレワークの方が良い。ただ相対評価は難しいので  
成果主義へ段階的な移行が必要。  
オンラインでも雑談を通じた健康管理など、社員への  
あたたかい見守りを通じて、管理ではなく心配がしたい。

## 学会

関心ある講演を聞くだけであればオンラインで良い。  
有名でない研究者も大人数を集めることができる。  
論文文化されていない情報を  
届けたい人にシェアできる場が必要。

## 旅

移動自体の価値が研ぎ澄まされる。  
その場でしか得られない価値（五感を通じた  
一次情報取得や偶然性の出会い）が再認識され、  
新たな付加価値と共に創造される旅が重要性を増す。

## 授業

オフラインの要素を  
いかにオンラインで再現するかではなく、  
本当に必要な機能でオンラインの強みを活かすと、  
十分効果的な教育ができる。

すべてに共通して前提にあるのは・・・

今までのやり方に揺り戻さない！

**オンライン化**

うまく組み合わせたい！

**オフラインのリ・デザイン**

これこそまさに・・・

**Society 5.0**

サイバーとフィジカルの融合形の一つの具象化

# コロナ危機を克服し、イノベーションを創造するシナリオ

## ① 研究開発の促進

2025 大阪・関西万博において世界に発信

2030 Society 5.0

1) 研究開発手法  
のオンライン化

- 実験場所と人が操作する場所を離し、**遠隔で研究を行う研究手法の開発**
  - ・ 実習レベルでは、**VRの利用**
  - ・ 研究レベルでは、**実験ロボットによる自動化**（動物の飼育や試薬の調整など）

2) オンライン  
研究者交流

- **AR/VRの技術開発**
  - ・ 学者が一堂に会する場で偶発的に生まれるディスカッションはオンラインでは困難（偶然性を担保する仕組みやテクノロジーの検討が必要）

研究の効率化と  
アイデア発想の  
場の多様化

## ② 企業の対応

1) 現場データの  
オンライン化

- **データが取れる現場のオンライン化推進**（事務方のPC導入率で見るオンライン化率でない）
  - ・ **現場におけるデータ記録ソフトの導入の促進**
  - ・ **オンライン面会**や事業所同士の**オンライン相談**の拡大

2) 管理型マネジメント  
からの脱却

- テレワークに適した**健康管理や評価方法の確立**（管理ではなく見守るマネジメントへ）
  - ・ イヤホン疲れ、オンライン会議による過度な集中を、バイタルデータでアラート
  - ・ **本末転倒なバイタルデータ管理の目的化や偏ったプロセス評価の回避**が必要

ハッシュタグ人材と  
大企業リソースの  
融合

## ③ 新技術のマネタイズ

1) オンライン技術展示

- 技術展示のオンライン化による**マーケティング手法の変革**
  - ・ 新規顧客との接点のつくり方の工夫、オンラインで購入につながる営業ノウハウ
  - ・ オンライン接点のみでは、VCと信頼構築し資金調達することの難易度が上がる

2) オンライン〇〇の  
一時的でない規制緩和

- オンライン診療やオンライン授業を、**今だけの特例で終わらず、テクノロジーの新市場**として位置付けた規制緩和へ  
（要素技術はあっても、**一時的な緩和ではビジネスにつなげることが困難。**）

新技術の  
マーケット拡大と  
社会受容性の向上

# 参考) 政策を若手に届けるためには？

## コロナ情報の収集源

### <ニュース情報>

- Newspicks
- BBC
- 英語のTwitter
- note
- weekly ochiai
- horiemon.com
- 専門家の発信（専門家会議、noteなど）

### <人づての情報>

- 友人とのzoom飲み
- 社内slackのコロナチャットに情報を集約
- コロナ危機を踏まえた世界に関するオンラインイベント
- 先に感染拡大した海外の人との連絡
- 留学している医師や疫学の専門家との議論

## 情報の届け方と受け取り方

### <届け方>

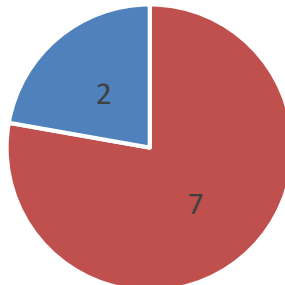
- 対面接点がなくなり、情報を本当に必要としている人に届きにくくなっている（情報を得にくい環境にある人、日本語が話せない方など）
- 意識的にとどける努力をしていかなければ、問題が悪化したり、格差が拡大してしまったりする点は留意したい

### <受け取り方>

- ニセ科学が多いので、注意が必要
- コロナによって、疫学・生物学・科学技術全般が良くも悪くも身近になった

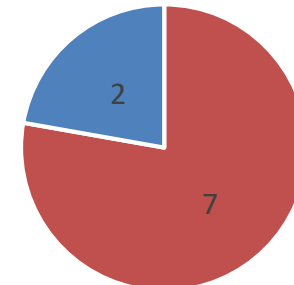
## 若手は科学技術イノベーション政策の動向を知っているか？（委員9名に質問）

改正科学技術・イノベーション基本法を知っていますか？



■ 知らない ■ 未回答

イノベーション創出に向けたSBIRの改訂議論を知っていますか？



■ 知らない ■ 未回答